



政治のホンマを伝えるチラシ

レオナンデス通信

www.nakanishireo.com/ 平成24年7月～9月号 発行：中西レオ応援団

議員定数・報酬

明石市議の定数と報酬の見直しは、議会活性化特別委員会でも議論されており、平成24年度中に結論を出すと言われています。各党派から案が持ち寄られています。議員の役割を見直す程の大きな改革案は出ていません。議員とは何か？どのような役割を果たすのか？という議論を始めましょう。

思い切って定数を2倍 報酬を半分にしてみる

現状1千万円31人

議員は何点？

現在、明石市議会の定数は31名、報酬は月額約60万円で年額約1千万円。今まで通りに周辺市や同規模の市と比較するならば、人数も金額も多くあります。ところが参考になっている他市も、周辺市や同規模市を参考にしており、十分な根拠があるとは言えません。今回の改革は、明石の将来を左右する舵取り役を「いくらで」「何人」「どんな役割で」雇うか、明石市民が問われているのです。

他市で見られる「改革」は、わずかな削減を大仰に行い、議員は「身を削って改革した！」市長は「私が削減させた！」とアピールすることです。これでは市民の不満・政治不信は何も変わりません。



明石市議会の本会議場
議員席は33席ある

議員の役割は、「市民の声を行政に反映させて、予算や条例案等を議決する、条例案を提案する」というものです。しかし、現在議員はどれだけ市民の意見を聞いているでしょうか？議会の集めたアンケートでは、93%が「議員に意見や要望を伝えていない」と答え、50%が「議員の活動内容を知らない」と答えています。つまり全然評価されていないのです。

議員の仕事は本来、重い責任を負い、プライベートが制限される、非難を覚悟で政策を判断する重要なものであると認識しています。また、それは尊敬され、能力の高い者が選ばれ、十分な報酬が用意されて当然だとも考えています。ところが、現状は十分な仕事ができいていません。これを解決する方法の一つが、議員の「うまみ」や「特殊性」を無くすことです。報酬を月額30万円にすると専門として生活できるレベルにならず、結果として女性やサムライ業（弁護士や税理士などのいわゆる士業）の議員が増えることが期待されます。

また、定数を5千人に1人とする事で、議員が身近な存在になり、「もっと明石をこうしたい」という普通の市民の意見が伝わりやすくなります。

選挙というハードルも、定数が増えることで普通の人が当選しやすくなり、当選後の報酬が低いことで莫大な選挙費用を使って選挙をする人も少なくなると、立候補がしやすくなります。

議員の待遇 現行の増員案比較

	議員定数	1人あたり人口	月額報酬(円)	年間報酬(円)	報酬×定数	保険	議員年金	退職金
現行	31人	9,370人	602,000	10,041,360	約3.1億円	国民健康保険	なし	なし
増員案	58人	5,008人	300,000	5,004,000	約2.9億円	国民健康保険	なし	なし

“削減”より“増員”

議員の数は削減するべきだという根強い意見もありますが、問題はコストと効果であって、安易に数を減らすべきではありません。

価値観や生き方が多様化している現代においては、たとえ優秀な政治家でも少数人数で全ての判断をすることは難しく、色々な分野のスペシャリストや経験豊富な者による市政運営が必要です。

例えるなら、お医者さんは以前「内科」「外科」などの分類でしたが、現在は内科だけでも消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、神経内科、腎臓内科と非常に細分化されています。政治の世界においても、法律、会計、建築、介護、医療、教育など専門知識や経験が必要です。「人数が多いと物事が決まらないう」というご意見もいただきますが、決してそんなことはありません。各議員が自らの判断で賛否を出せば31名でも58名でも同じことです。



明石市議会議員 中西レオの活動報告